

名古屋工業大学第 25 回技術研究発表会に参加して

三重大学工学部工学研究科技術部

澤井秀樹

sawai@ss.mach.mie-u.ac.jp

1. 記念すべき節目の発表会

今回で標記の発表会は25周年という事で、節目の研究技術発表会であり、二日間に渡るスケールの大きな発表会でした。

2. 基調講演とそれに関連して

9月17日には5つの基調講演があり、18日は11テーマの研究発表がありました。基調講演は5つの大学からの発表で、何れも技術組織の照会や組織運営についての講演であり、さらにそのうち3つが「地域貢献」に関わるものでした。

「中期目標」を受けてか[地域の大学として・・・貢献する]として、その組織の存在をアピールしたいと言う熱意が充分伝わってきました。

しかし、地域貢献活動と言うと、やはり、子供たちを相手にした活動が多かったことも確かなことで、展開していく必要性を感じました。

大きな組織としての目標に、否定的な事を言うつもりではありませんし、そんな度胸もありませんが、丁度この発表会に前後して、「・・・科学の祭典」等に絡んで、博士前期と後期の学生君数名と雑談していました。

学生君曰く「大学としての外面もだけど、中の教育や研究にも・・・」と言う、学ぶ事に真剣な学生たちの声もある事を、勝手ながらご照会させていただきます。

その頃、修士の定員オーバー問題が、現状追認で決まりつつあった頃の[雑談]だけに、迫る物がありました。

3. 研究発表

二日目の研究発表だけでも11テーマもありました。

そのうちの一つで「企画・設計・開発」に関するテーマで発表させていただきました。

ただ、そのような教育研究に直接的な、或いはそれに近いテーマは半数に満たず、管理的、間接的な環境をサポートするご報告の方が多かったので、少し、この先心配しています。(それはそれで教育研究環境を支える重要な基盤ですが)

4. 最後に

昨今、「何とかシミュレーションだけで・・・」「(いきなり)数値計算だけで」などと言う事は、増えていないと思いたいのですが、確かにこうすれば「卒業のためのスムーズな通過過程」になり、合理的で経済的な大学になるでしょう。

先の事と、これとを直接結びつけることが間違いであろうと望みつつ新たな実験装置の設計にかかる事にします。